

DS-8「地盤品質判定士制度の現状と将来の発展」

DS-8 For Further Development of Professional Engineer for Geotechnical Evaluation

北 詰 昌 樹 (きたづめ まさき)
東京工業大学 教授

森 友 宏 (もり ともひろ)
前橋工科大学 准教授

1. はじめに

地盤品質判定士の資格制度は、東北地方太平洋沖地震での大災害で顕著になった宅地の品質・安全性の評価・品質判定を行い、地盤災害の防止や軽減に貢献することを目的に2013年に創設された。判定士の活動は、(1)一般市民向けの地盤評価に関わる調査・試験の立案、地盤評価と対策工の提案、(2)社会活動・地域貢献としての地盤防災の啓蒙、災害復旧に係る地盤と対策工の評価と提案、(3)災害調査、(4)技術講習会、セミナー、学会報告等を通じた判定士会員の技術の研鑽とモラルの向上並びに社会への啓蒙などを行っている。

ディスカッションセッション「地盤品質判定士制度の現状と将来の発展」では、地盤の諸問題に関する品質評価の方法・実情について議論が行われると共に、地盤品質判定士の業務などの発表を通じて、地盤品質判定士制度の課題や発展的方策にかかわる議論・討議が行われた。

2. 発表と討議

本セッションでは、表-1に示す計12編の投稿があり、まずすべての論文の発表を行い、その後討議を行った。

表-1 発表論文一覧

タイトル	発表者
地盤品質判定士会の最近の活動	北詰昌樹
地盤品質判定士会関西支部の設立経緯、活動状況及び課題	中岡時春ほか
地盤品質判定士会神奈川支部の活動状況と課題	立花秀夫ほか
2016年発生熊本地震後の地盤品質判定士としての活動報告	田尻雅則
熊本地震により滑動崩落被害を受けた造成宅地の被災要因の検討及び復旧対策工法	門田浩一ほか
熊本地震により滑動崩落被害を受けた造成宅地の動的解析を用いた被災要因の検討	佐藤 成ほか
火山灰質粘性土地盤における縦打ち鉄筋挿入工の周面摩擦抵抗力について	大澤宏明ほか
地盤品質判定士が行なう宅地・擁壁の評価について	諏訪靖二
戸建て住宅地盤調査へのスウェーデン式サウンディング試験活用上の課題	中村裕昭ほか
スウェーデン式サウンディング試験結果とN値との新相関式の提案	大島昭彦ほか
スウェーデン式サウンディング試験結果の力学的意味	森 友宏
地盤品質判定士の課題と将来に関する私見	小田部雄二

2.1 論文発表

論文発表では、判定士協議会の組織と運営、国や自治体での取り組みの紹介、判定士会の活動(社会への啓蒙、技術研鑽、セミナー・講演会など)について、本部、神奈川支部と関西支部、熊本部会での最近の活動状況が発表された。また、災害復旧に関して、災害復旧の状況と判定士の活動状況と課題などが紹介された。

技術的課題に関しては、熊本地震による造成宅地の災害要因分析の検討、特に災害地に広く堆積している黒ぼくの特性の特徴とそれを考慮した動的解析による被害要因、縦打ち鉄筋挿入工の被災擁壁の補強への適用性について発表があった。スウェーデン式貫入試験に関係して、試験結果の力学的評価、利点と問題点が指摘された。特に、稲田式による評価方法の問題点を指摘して定量的な設計定数として使えないとの指摘、一方で地盤条件毎の新換算式の提案があり、適用性が高いとの発表もあった。

2.2 ディスカッション

ディスカッションでは、各論文への質疑の後に、擁壁やスウェーデン式貫入試験に関して技術的課題だけでなく建築技術者と地盤技術者との考えの違い、行政的・社会的課題なども含めた多くの議論があった。その後、判定士の活動や将来についての議論が行われた。議論では、地盤相談の依頼者は多種多様であり、被害状況や相談費用負担などについての認識が大きく違うとの意見があった。また、判定士の基本的な姿勢として、行政の代弁者ではなく住民に寄り添いながらも感情移入せずに技術的課題に対する真摯な対応が必要との指摘もあった。さらに、判定士の将来について、災害協定や地盤相談などを進めるにあたり法人格の取得に向けて準備を進めていく必要があるとの意見もあった。

3. おわりに

近年、行政や一般市民の方への判定士の知名度が上がってきており、判定士への依頼や期待も大きくなってきている。一方で、自治体などからの期待に応えるためには法人格の必要性も指摘されている。今後は、組織の法人化と組織・体制(地盤評価基準の方法と対価、相談窓口の常設化、契約書、瑕疵責任、保険適用など)の確立、判定士の技術向上と倫理の確保などの多くの課題に取り組む必要性が求められている。

(原稿受理 2019.7.19)